

相談支援事業所 相談に関する報告(令和元年6月～令和元年9月)

<支援に困難を感じた事例>…困難の要因となっている事実及び事例、相談の傾向

<地域課題>…報告期間に感じた地域課題

【春日苑】

<p><支援に困難を感じた事例></p>	<p>【本人が求めるサービスの提供が難しいケース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体障がい者の方で独居。自宅で入浴ができる環境ではなく(視力が低下している為元栓が閉まっているか心配でガスを契約していない。体格が大きい為浴槽に入ることができない。)入浴が半年程できていない(清拭は自分でやっている)。入浴の希望があり、生活介護での入浴を提案するが入浴のみ行い帰宅したい希望がある。しかし、該当する生活介護がない。また、1日利用するのであれば自分の希望する活動、食事内容、職員の支援の個別性等を求めており同じく該当がない。本人が求めるサービスの提供が難しい。
<p><地域課題></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の求める支援を実現するために、提供できる情報やプランを検討し相談員同士の情報共有ができる体制づくりが必要。 ・障がい福祉サービスを含め、幅広い地域資源の活用を検討できる協力体制づくりが必要。

【かすがい】

<p><支援に困難を感じた事例></p>	<p>【入院治療を拒み周囲を巻き込むケース】</p> <p>複数の精神疾患の診断があり、精神保健福祉手帳所持。</p> <p>感情の波が激しく自殺企図があり、何度も自殺未遂を図っている。主治医から入院治療が必要と判断されているが、本人が入院を拒み続けており、判断をしてもらえない状況にある。また夫も入院には積極的ではない。夫が仕事で帰宅できないことがわかると、不安定になる傾向がわかってきたが、夫から本人へ連絡がつかなくなると、子どもが通う学校へSOSを出し支援センター含め安否確認のため訪問せざるを得なくなってしまっている。関係者を増やし(民生委員など)役割分担を決め支援にあたっていたが、本人が信頼している人以外は拒否しているためうまくいっていない。夫が対応できないと、子どもが学校を休んで本人の側に居させることもあり、非常に良くない状態が続いている。今後、児童相談所や市子ども政策課にも介入してもらうことと、緊急時に備え保健所、警察にも体制の輪に入ってもらいたいことを予定している。</p>
<p><地域課題></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・治療や支援などに拒否がある方に対して、家族や支援者の理解を促し、協力体制を作ることができるようにする。 ・他の障がい者生活支援センターとケースを共有できるようにする。

相談支援事業所 相談に関する報告(令和元年6月～令和元年9月)

<支援に困難を感じた事例>…困難の要因となっている事実及び事例、相談の傾向

<地域課題>…報告期間に感じた地域課題

【JHNまある】

<p><支援に困難を感じた事例></p>	<p>【代理受診を長年継続しているケースの相談】 精神科領域では以前からあった問題ではあるが、過去に通院や入院をしたことがある人で、本人が通院しなくなっても家族が代わりに受診し、様子や病状を伝えることで医療機関も状況を配慮して仕方なく薬を処方し続けている場合がある。 相談につながったケースは、家族が要介護者となったり亡くなれば代理受診が途絶えてしまい、家庭環境の変化や服薬が途絶えたことで入院になったり、家族内でのトラブルから不安定な状態になり保健所や警察の介入後、関係者が集まり相談につながっている。 代理受診が長期化しているケースでは、本人の受診に対する習慣や動機がなくなっていたり、受診した方が良いと言う気持ちはあっても外出への不安や強迫症状により外出自体が困難になっており、受診がスムーズにいかないことが多い。</p>
<p><地域課題></p>	<p>入院になったケースは家族やソーシャルワーカーからの相談で退院後の生活の場、通院、日中活動やサービス利用等の検討を行うなど支援を開始できているが、未だに代理受診しているケースが複数あり、本人の電話相談や家族の相談で訪問やサービス利用を提案するが介入には至らずにいる。 高齢な親や家族と障がいを抱える本人の在宅生活を支えるためにも、地域包括支援センターや介護保険分野の支援者、地域の関係者とも今まで以上に連携できるようにしていく必要性がある。</p>

【あっとわん】

<p><支援に困難を感じた事例></p>	<p>【登校しぶり、学校に行けずに困っているケース】 ・保護者から「重度の知的障がいのある中学生が、家の中で暴れて大変。まともに生活ができない。」「自閉スペクトラム症と診断されている小学生が、学校に行けていない。行けない理由もわからない。」という相談があった。学校やスクールソーシャルワーカー等と連携しているが、家庭内での本人への対応については、福祉サービス等の介入は難しく、保護者が対応を工夫している現状がある。</p>
<p><地域課題></p>	<p>【学ぶ場が必要】 ・保護者が、子どもの障がいについて理解したり、関わり方を学べる機会が少ない。 ・育児の困難を感じる保護者に対して、予防する視点を取り入れた学びの場や保護者が子どもの育ちを支える力を向上する取り組みが必要である。 ・子どもの困った行動に対して、観察の視点を保護者が知っていくことや共に原因を客観的に考える仕組みが必要である。</p>

相談支援事業所 相談に関する報告(令和元年6月～令和元年9月)

<支援に困難を感じた事例>…困難の要因となっている事実及び事例、相談の傾向

<地域課題>…報告期間に感じた地域課題

【しゃきょう】

<p><支援に困難を感じた事例></p>	<p>【計画相談が介入することで、潜在的なニーズが表面化したケース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画相談支援が導入される中で、今までセルフプランでサービスを利用していた当事者・家族等から「はじめて相談に繋がった」「これ以外のサービスは利用できないと思っていた」等の発言を耳にする機会が増えた。 ・計画相談のアセスメントの中で、本人や家族が潜在的に抱えていたニーズが表面化し、今までほとんどサービスを利用しなかった世帯からも、「自らが希望する生活」を実現するためにサービス利用を希望する声が高くなるようになった。
<p><地域課題></p>	<p>計画相談を利用することで、直接当事者と関わらなければ把握できない潜在的ニーズが掴めることが多くなったが、それに比例し福祉サービスに求められるサービス供給量も増加し、近い将来、当市における社会資源の深刻な不足状態にみまわれる可能性が危惧される。</p>